

事例7 医療社会福祉法人翠会 蓮根ひまわり苑シエモア西台

～ 若手職員が中心となって腰痛予防対策に取り組み、短期間で大きな効果 ～

1 企業の概要
<ul style="list-style-type: none">○介護老人保健施設。○入所サービス 120 床、短期入所サービス 5 床、通所リハビリテーション 50 名。○従業員数約 60 人。
2 健康確保対策の特徴
<p>(1) 取組の体制、経緯、方針</p> <ul style="list-style-type: none">○介助を担当する若手職員の腰痛に関する問題意識が出発点。○この職員を中心とした、担当課の垣根を越えた「腰痛予防対策チーム」を発足させ、施設全体として組織で対応策を検討・実施。 <p>(2) 取組の内容、目標設定、成果</p> <ul style="list-style-type: none">○介護職員の腰痛（33 名中 23 名）、利用者（介助される者）の痛みに着目して、厚生労働省の腰痛予防対策指針に基づく取り組みを開始し、短期間で介助時の腰痛の 7 割が改善。○今後、同一法人の他施設への展開が期待される。 <p>(3) 自社の状況（強み・弱み等）を踏まえた工夫や、取組が上手くいくポイント</p> <ul style="list-style-type: none">○腰痛予防を考慮した介助方法や作業姿勢は、従来の方法とは異なるので、取組当初は定着に至るまで時間がかかった。「なぜ腰痛予防が必要なのかを説明し、理解を得る」ことで定着に至った。○また、施設全体での勉強会だけでなく少人数での技術向上研修、写真付のマニュアルを作成したことも取組が上手くいった要因。